

# MOT 2018 秋 FALL

## サテライト Satellite

うごきだす物語  
- To become a narrative

### 2018.10.20-11.18

Artwork: Chika Higashi (Cocci la elle)

## MOT サテライト 2018 秋 うごきだす物語

2018年10月20日(土) - 11月18日(日) 会期中の金・土・日、祝 11:00-18:00

入場無料

会場：清澄白河エリアの各所

### MOT サテライトについて

「MOT サテライト」は、改修休館中に東京都現代美術館の活動を館外に拡張し、まちなかでアーティストの作品展示やプロジェクトを実施することで、「まち＝地域」の魅力を再発見しようとする試みです。

江戸時代からの下町情緒や水辺の風景などの魅力あふれるまちの特色に加えて、近年ではカフェやギャラリーも賑わいを見せるなど、新旧の文化が交わる清澄白河。1995年に開館以来、東京都現代美術館はこの地で活動を続け、国内外の現代美術を発信してきました。

第3回となるMOTサテライト2018秋は、「うごきだす物語」というテーマのもと、2019年3月下旬に迫った美術館のリニューアル・オープンへの気運を高め、地域や関係各所との連携をさらに深めていくことを目指します。さまざまな領域で活躍してきた作家や研究者たちが清澄白河周辺のまちや人々と関わり、対話が生まれ、多くの作品や関連プログラムが生まれました。作品やプロジェクトを通してまちの記憶が「物語」として動き始め、今まさに動き始めたまちの姿が生き生きと描き出されていきます。ぜひまちをめぐり、作品と触れ合いながら、本展をお楽しみください。

主な展示は、工場跡地や地域拠点を活用した7ヶ所の「MOTスペース」でご覧いただけます。また、コーヒー・ロースタリーやカフェ、商店街などに点在する「MOTスポット」の小さな展示を、まち歩きを楽しみながらご周遊ください。地域のクリエイティブな拠点「地域パートナー」で行われる多彩な活動にもご注目ください。  
\*詳細・追加情報は、随時当館ウェブサイト ([www.mot-art-museum.jp](http://www.mot-art-museum.jp)) にてお知らせします。

### 参加作家・プロジェクト

ジョン・ヨンドウ / 宮永 愛子 / 鈴木 のぞみ / ひがし ちか / 志村 博 / 東京都現代美術館収蔵品展示 (デニス・オープンハイム) / 東京大学 廣瀬・谷川・鳴海 研究室 × DNP AR プロジェクト / 東京藝術大学芸術情報センター 清澄白河プロジェクト / 錯視ブロックワークショップグループ / のらもじ発見プロジェクト / 心臓ピクニック・日本的 Wellbeing プロジェクト(※1) / 鉄割アルバトロケット(※2) ※1 トークイベント&ワークショップのみ ※2 演劇公演のみ

主催  
東京都、東京都現代美術館・アーツカウンシル東京  
(公益財団法人東京都歴史文化財団)

MOT  
MUSEUM CONTEMPORARY TOKYO  
OF ART  
東京都現代美術館

ARTS COUNCIL TOKYO

芸術文化のあそびの出会い  
東京都歴史文化財団  
Tokyo Metropolitan Foundation  
for History and Culture  
COLLABORATION PROJECT

Tokyo Tokyo  
FESTIVAL

01

\*本内容は都合により変更になる場合がございます。

## 本展のみどころ

－ まちの記憶が動き出し、物語を語り始めます －

### ■ アーティストと、まち・人々との交流から生まれる作品

ジョン・ヨンドウが清澄白河周辺地域の住民たちとの交流を通して描き出す新作の映像作品をはじめ、その場の時間の痕跡を可視化する宮永愛子や、事物に残る記憶や風景を日常的なものに定着させる鈴木のだみの新作インスタレーションを発表します。

### ■ 作品がまちの風景の一部に

建築物の一部となり、まちの風景の一部に溶け込んでいくひがしちかによる作品や、見慣れた風景にある種の違和感を投げかける志村博による作品が登場します。

### ■ 収蔵作品のまちなかスペースでの展示

通常、美術館でご覧頂いている当館収蔵作品を、今回、まちなかのスペースで展示し、日常生活空間の中での新たな鑑賞体験を生み出します。

### ■ 参加体験展示でめぐる清澄白河

教育機関に所属するアーティストや研究者が、地域や清澄白河というまちを題材に、さまざまな視点から、テクノロジーを用いた体験型作品を含むプロジェクトを展開します。複数の大学と連携し、美術館のリニューアル・オープンを前に「地域とともに呼吸し展開する美術館」として、見過ごしていた風景に出会う機会を生み出すことを目的に、展示やワークショップを行います。



参考イメージ  
MOT サテライト 2017 秋

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL.03-5633-5863 (直通) / FAX.03-5633-5870 (FAX 番号は9月28日(金)まで有効)

E-MAIL.mot-pr@mot-art.jp

MOT+  
MUSEUM CONTEMPORARY TOKYO  
OF  
ART  
東京都現代美術館

## 参加作家・プロジェクト

### ジョン・ヨンドゥ

1969年韓国、晋州生まれ。虚実が交錯する独自のファンタジーを描く写真、映像作品で、人々が抱く夢やささやかな人生に光をあてる。「ヴェネツィア・ビエンナーレ韓国館」(2005年)、「Memories of You - Artist of the Year 2007」(2007年、韓国国立現代美術館)、「地上の道のように」(2014年、水戸芸術館現代美術センター)他、国内外での展覧会多数。

#### | 作品展示 |

▷ MOTスペースC

作品は常に、人々とのコミュニケーションを通して制作されており、本展に向けて制作する映像作品は、清澄白河周辺地域の住民たちとの交流から生まれていきます。世代を超えて人々に刻み込まれているさまざまな記憶をつなぎ、さらに江戸時代からこの地に根付く文化も織り交ぜながら、筋書きのない物語が動き出します。

#### | 関連プログラム |

##### 上映&トーク

出演：ジョン・ヨンドゥ、分部 登志弘(深川資料館通り商店街協同組合理事長)ほか

開催日：10月26日(金)

会場：江東区深川江戸資料館 [江東区白河1-3-28]

\*詳細は美術館ウェブサイトでお知らせします。

### 宮永 愛子

1974年京都府生まれ。日用品をナフタリンで象ったオブジェや、塩を使ったインスタレーションなど気配の痕跡を用いて時を視覚化する作品で注目を集める。「日産アートアワード」初代グランプリ受賞。主な個展に「なかそら-空中空-」国立国際美術館(2012)、「みちかけの透き間」大原美術館有隣荘(2017)など。

#### | 作品展示 |

▷ MOTスペースF

かつて製本工場であった場所で、場の痕跡を象徴するモチーフをかたどった立体作品を中心とするインスタレーションを発表します。その場所や周辺の地域に流れてきた時間や、日々の記憶の集積が視覚化され、作品として新たな時を刻み始めます。

#### | 関連プログラム |

##### トーク

出演：宮永 愛子 ほか

開催日：11月17日(土)

会場：THE FLEMING HOUSE [江東区三好2-6-10]

\*詳細は美術館ウェブサイトでお知らせします。

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL.03-5633-5863(直通) / FAX.03-5633-5870 (FAX番号は9月28日(金)まで有効)

E-MAIL.mot-pr@mot-art.jp

MOT+  
MUSEUM CONTEMPORARY TOKYO  
OF  
ART  
東京都現代美術館

## 鈴木 のぞみ

1983年埼玉県生まれ。東京造形大学で絵画を専攻し、卒業後に独学で写真表現を学ぶ。現在、東京藝術大学大学院博士後期課程在籍。近年の展覧会に2017年「無垢と経験の写真 日本の新進作家 vol.14」(東京都写真美術館)、2016年「NEW VISION SAITAMA 5 迫り出す身体」(埼玉県立近代美術館)などがある。「現代美術の展望 VOCA 展 2016」にてVOCA奨励賞を受賞。平成30年度ポーラ美術振興財団在外研修員としてイギリスにて研修。

### | 作品展示 |

▷ MOTスペースD・G / MOTスポット③・④・⑤

美術館の周辺で、被写体となる事物に残る記憶の痕跡やそこから見える風景を、その場に在る窓ガラスなどの日常生活に見られるものに定着させます。日常の風景を主観を超えた視点で捉え、写真に写すことで抽象化し、銀塩写真の物質的な化学反応が、光の痕跡としてそれらの事物に潜んでいる記憶を可視化していきます。

### | 関連プログラム |

#### トーク

出演：鈴木 のぞみ ほか

開催日：10月28日(日)

会場：白河二丁目町会会館 [江東区白河2-3-8]

#### ワークショップ

開催日：11月11日(日)

会場：白河二丁目町会会館 [江東区白河2-3-8]

\*詳細は美術館ウェブサイトでお知らせします。

## ひがし ちか

1981年長崎県生まれ。服飾を学んだのち、デザイナーのアシスタントを経て、絵を描き始める。絵を描く土台を日傘に移し、日傘作りを独学で学び、日傘に1本ずつ絵を描いてゆく。2010年より1点もの日傘屋コシラエルを立ち上げる。

### | 作品展示 |

▷ MOTスポット⑥

これまでに開催された2回にわたるMOTサテライトにおいて、本展を象徴するメインイメージとしてすっかり定着した感のあるひがしの作品が、今回はさらに屋外へと展開していきます。街の風景の一部となるような、またはまちのさまざまな表情を浮かび上がらせるようなインスタレーションが、まちを色鮮やかに描き出していきます。

### | 関連プログラム |

#### トーク

出演：ひがし ちか、戌井 昭人(鉄割アルバトロケット主宰)

開催日：11月10日(土)

会場：THE FLEMING HOUSE [江東区三好2-6-10]

\*詳細は美術館ウェブサイトでお知らせします。

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL.03-5633-5863(直通) / FAX.03-5633-5870 (FAX番号は9月28日(金)まで有効)

E-MAIL.mot-pr@mot-art.jp

## 志村 博

1949年生まれ。東京深川で育ち、東京教育大学（芸術学科・構成専攻）卒業後、同大学院にて修士課程（芸術学修士）を修了。1975年に渡英、ケンブリッジ州立アート・カレッジにてデザイン・印刷・製本などを学ぶ。日本と英国を往来しながら、シルクスクリーン版画、写真、映像作品による個展を多数開催する。1990年代以降もテレビ放送番組制作やプラネタリウムへの映像提供、ケンブリッジ大学創立80周年記念書籍などへの写真提供など、日英を中心に創作活動を続けている。主な個展に「遙かなるグランチェスター・メドー」（渋谷区立松濤美術館、2010年）。2011年に清澄白河にアートスペース「グランチェスター・ハウス」を開設。

### | 作品展示 |

▷ MOTスペースB

「映像時空の旅」をテーマに、1960年代と現在とを往来しながら写しとめた清澄白河と英国の風景や、魚眼撮影を含む作品世界を展開します。映像の原点の一つである映像装置「カメラオブスクラ」や、17世紀以降さまざまな改良され隆盛を見せた幻灯機が、今日のプロジェクション文化につながることを再認識し、タイムトラベルの楽しさを想起させる展示空間を創出します。

### | 関連プログラム |

#### トーク

出演：志村 博 ほか

開催日：10月21日（日）

会場：江東区立深川図書館 [江東区清澄3-3-39]

\*詳細は美術館ウェブサイトでお知らせします。

## デニス・オッペンハイム (Dennis Oppenheim) - 東京都現代美術館収蔵品展示 -

1938年生まれ - 2011年没、アメリカ、ワシントン州出身。1960年代後半に、ミニマリズムを批判的に継承する運動としてランド・アート、ボディ・アートを生み出し、以後、近代美術が排除してきた要素を作品に取り込みながら、コンセプチュアル・アートの黎明期を切り開いた。

### | 作品展示 |

▷ MOTスペースE

美術館のホワイトキューブのスペースから、まちなかに飛び出し、東京都現代美術館収蔵の映像作品が日常空間の中で展示され、新たな鑑賞体験をもたらします。デニス・オッペンハイムのビデオ作品は、パフォーマンスとして行われた自らの身体的行為を記録した映像で、形に残らない行為のプロセスそのものを作品化しています。

\*東京都現代美術館の収蔵作品は約5,000点に及びます。戦後美術を中心に、現代へと繋がる戦前期の革新的傾向を端的に示す作品なども含め、近代から現代に至る幅広いジャンルに及ぶ多彩な作品群を所蔵しています。

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL.03-5633-5863 (直通) / FAX.03-5633-5870 (FAX番号は9月28日(金)まで有効)

E-MAIL.mot-pr@mot-art.jp

MOT+  
MUSEUM CONTEMPORARY TOKYO  
OF  
ART  
東京都現代美術館

## 東京大学 廣瀬・谷川・鳴海 研究室 × DNP AR プロジェクト

「東京大学 廣瀬・谷川・鳴海研究室」(※)と大日本印刷株式会社による、美術館での鑑賞行動支援に関する研究プロジェクト。今回の MOT サテライトでは、「東京大学 廣瀬・谷川・鳴海研究室」と、大日本印刷株式会社 (DNP) が地域をテーマとした展示を題材に、共同研究の成果を紹介する。

※ 廣瀬 通孝 教授、谷川 智洋 特任准教授、鳴海 拓志 講師から成る東京大学大学院情報理工学系研究室として、バーチャルリアリティ技術を端緒としたインタフェース技術について多様な研究を国際的に展開する。

### | 作品展示 |

▷ MOT スペース A

「清澄白河 思い出のぞき窓」と題して、清澄白河の音楽スタジオ「スズキスタジオ 1」のオーナー・鈴木義智氏と、バーチャルリアリティ研究者 (東京大学 廣瀬・谷川・鳴海研究室) が連携し、江東区の今と昭和の風景写真が AR (拡張現実感) で溶け合う「思い出のぞき窓」を展示します。1964 年のオリンピック聖火リレーの様子や、当時の風景にスポットをあてます。

## 東京藝術大学 芸術情報センター 清澄白河プロジェクト

東京藝術大学上野キャンパスにある東京藝術大学芸術情報センターは、学内共同利用施設として、上野・取手・横浜・千住・奈良キャンパス (美術/音楽/映像) 全体を対象に、情報メディアやファブリケーション機材を用いた講義・ワークショップや、情報技術を用いた情報発信サポート等を行っている。本展では、昨年度の MOT サテライトに続き、専攻の枠を超えた多様な学生や教員らが、地域連携の展示やワークショップを行う。

### | 作品展示 |

▷ MOT スペース A

「メディアアート・プログラミング I/II」の履修学生が「うごきだす物語」をテーマに、コンピュータ言語 processing で制作した短編映像約 15 点と、担当教員である田所 淳 (※) による映像作品を併せて展示します。

※ 田所 淳 1972 年生まれ。クリエイティブコーダー。東京藝術大学「メディアアート・プログラミング」担当教員。アルゴリズムを用いた音響合成による音楽作品の創作、ラップトップコンピュータを用いた音と映像による Live Coding を行う。近年は音響と映像を融合したインスタレーション作品を制作。アルスエレクトロニカ・フェスティバルや東京藝術大学大学美術館陳列館などで展示。

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL.03-5633-5863 (直通) / FAX.03-5633-5870 (FAX 番号は 9 月 28 日 (金) まで有効)

E-MAIL.mot-pr@mot-art.jp

## 錯視ブロックワークショップグループ

多分野の研究者やデザイナーが参加して、錯視ブロックを使ったワークショップを開発しているグループ(※)。錯視ブロックとは、その表面の模様の組み合わせ方で多様な「錯視」を生じさせ、紙の上に書いてだまし絵のような印象を与える、不思議な立体を作るブロックである。見る角度が変わると、眼に映る模様の組み合わせの変化とともに、錯視の生じ方が変化する。

※ 大谷 智子(東京藝術大学芸術情報センター 助教)と丸谷 和史(NTT コミュニケーション科学基礎研究所)らが中心となって、錯覚世界を楽しむための研究活動を展開している。

### | 作品展示 |

▷ MOT スペース B

清澄白河・美術館周辺の大きな地図の上に、親子やワークショップ参加者らが錯視ブロックを使って作った未来の建物や思い出の建物を展示します。また、会期中に幅広い層が楽しく学べる体験ワークショップを開催します。

### | 関連プログラム |

#### サッカク・ブロック・ワークショップ

開催日: 11月3日(土・祝)

会場: 江東区立深川図書館 [江東区清澄 3-3-39]

定員: 10組(予定)

\* 詳細は美術館ウェブサイトでお知らせします。

## のらもじ発見プロジェクト

下浜 臨太郎、西村 斉輝、若岡 伸也らによる、古いまちなみや看板に残る個性的で味のある素敵な文字たちを「のらもじ」と名づけ、発見 → 分析 → フォント化し、その魅力を再発見するプロジェクト。データとしてきれいに整えられたフォントにはない、手書き文字の不思議な愛らしさや人間味、風雨にさらされ素材と馴染んだ民藝的な魅力をたたえる「のらもじ」による展示やワークショップを行う。

### | 作品展示 |

▷ MOT スペース各所 / MOT スポット④

昨年度の MOT サテライト開催時に清澄白河で採取された「のらもじTシャツ」や映像インスタレーションとして展示された「清澄白河チューリップフォント」を使ったワークショップや、スタンプラリーも開催予定です。

### | 関連プログラム |

#### のらもじワークショップ@清澄白河

開催日: 10月27日(土)

会場: 江東区立深川図書館 [江東区清澄 3-3-39]

\* 詳細は美術館ウェブサイトでお知らせします。

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL.03-5633-5863(直通) / FAX.03-5633-5870 (FAX番号は9月28日(金)まで有効)

E-MAIL.mot-pr@mot-art.jp

MOT+  
MUSEUM CONTEMPORARY TOKYO  
OF  
ART  
東京都現代美術館

## 心臓ピクニック・日本の Wellbeing プロジェクト

国際的に活動する研究者・アーティストを含む多彩なメンバーによるトークとワークショップを行うプロジェクト。「日本の Wellbeing プロジェクト」(※)とは個の主観的幸福に着目した Wellbeing (ウェルビーイング=心身のよりよい状態)を考える試み。その1つとして行われる「心臓ピクニック」は、手のひらで振動する装置を用いて心臓の動き・鼓動に触れ、自分や他者の「生命」を理解・実感するワークショップである。

**心臓ピクニック** 渡邊 淳司 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所)、川口 ゆい (ダンサー、コレオグラファー)、坂倉 杏介 (東京都市大学)、安藤 英由樹 (大阪大学)

**日本の Wellbeing プロジェクト** 安藤 英由樹 (大阪大学)、坂倉 杏介 (東京都市大学)、渡邊 淳司 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所)、ドミニク・チェン (早稲田大学)、青山 一真 (東京大学) ほか

※ 本プロジェクトは、戦略的創造研究推進事業 (社会技術研究開発)「人と情報のエコシステム」の研究開発領域「日本の Wellbeing を促進する情報技術のためのガイドラインの策定と普及」のアウトリーチ活動の一環である。

### | トークイベント & ワークショップ |

#### 心臓ピクニック@清澄白河

心の豊かさのために芸術やテクノロジーにできることは何か、多角的な視点から Wellbeing について考えるトークと、まちの人々/まちを訪れた人々が、地域のお寺を会場に、自分/他者の心臓の鼓動に触れて「生命」を実感する「心臓ピクニック」ワークショップを開催します。

開催日: 11月17日(土)

会場: 龍徳山 光厳教寺 雲光院 [江東区三好2-17-14]

定員: トーク50名 体験ワークショップ25名・予定(見学可)

\* 詳細は美術館ウェブサイトでお知らせします。

## 鉄割アルバトロケット

1997年、東京は根津の宮永会館で結成された、寸劇、音楽、踊りなどを織り込んだ演目を、ダム崩壊のごとくダダダッとするパフォーマンス集団。老若男女に熱狂的な人気を博し、その舞台は寄席や見世物小屋のような風情を漂わせ、観客をナンセンスと混乱の坩堝へと引き込んでいく。

### | 演劇公演 |

“寄り合いのおっさんが集まって、なにをしようか悩んだ挙句、わけがわからなくなって、まぬけで激しい宴会芸になってしまった” というような雰囲気醸し出す、本展に向けての新作演目も加えての公演。清澄白河のまちや MOT サテライトとどう絡むのか、絡まないのか!? 乞うご期待。

開催日: 11月3日(土・祝)、4日(日) 各日とも2回公演

会場: THE FLEMING HOUSE [江東区三好2-6-10]

\* 事前申し込み制。10月1日より受付開始予定。詳細は美術館ウェブサイトでお知らせします。

### | 関連プログラム |

#### トーク

出演: ひがし ちか、成井 昭人 (鉄割アルバトロケット主宰)

開催日: 11月10日(土)

会場: THE FLEMING HOUSE [江東区三好2-6-10]

\* 詳細は美術館ウェブサイトでお知らせします。

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL.03-5633-5863 (直通) / FAX.03-5633-5870 (FAX番号は9月28日(金)まで有効)

E-MAIL.mot-pr@mot-art.jp



## その他・関連プログラム

### AR まちあるきツアー@清澄白河

東京大学 廣瀬・谷川・鳴海 研究室 × 江東区観光協会

AR を使って現在と過去の風景をタブレット端末に映し出し、ガイドの解説を聞きながら、MOT サテライト会場周辺を散歩します。昨年度の MOT サテライトに続き、江東区で人気を博したシリーズ「AR まちあるきツアー『昭和の深川をめぐる』」の番外編です。

開催日：11月4日(日)

\*事前申し込み制。10月1日より受付開始予定。詳細は美術館ウェブサイトでお知らせします。

### トーク&まち歩きクルーズ「ガイドとめぐる MOT サテライト」

当館のガイドスタッフが参加者(1~5名程度)と一緒に清澄白河のまちを歩きながら、作品の見どころやまちの魅力をご案内するツアー。

開催日：10月27日(土)以降の土、日(全8回)

ツアー開始時間：14:30~/15:30~ \*予約不要、先着順でツアーが出発します。

所要時間：45分~1時間程度

集合場所：案内所(MOTスペースA) [深川資料館通り商店街協同組合事務所1F:江東区三好3-8-5]

### MOT サテライト クロスジャンル・トーク

さまざまなアプローチで清澄白河地域に関わる人々が、このエリアについての思いを語り合いながら、まちの魅力を再発見していくクロスジャンル・トーク。第1回から3回の MOT サテライト担当学芸員がナビゲートします。

参加者：分部 登志弘(深川資料館通り商店街協同組合理事長)、後藤 寿和(株式会社ギフト・ラボ代表取締役)、伊藤 薫(株式会社イールー代表取締役 CEO)、林 暁甫(NPO法人インビジブルマネージング・ディレクター)ほか

\*詳細は美術館ウェブサイトでお知らせします。

### MOT美術館講座

開催日：10月27日(土) 予定

\*詳細は美術館ウェブサイトでお知らせします。

### 地域パートナー

「MOT サテライト」の開催期間中に、地域のクリエイティブな拠点でも独自のプログラムを展開します。

リトルトーキョー、無人島プロダクション、Satoko Oe Contemporary、アルマス・ギャラリー、EARTH +GALLERY、アンドーギャラリー、Babaghuri、WILD SILK MUSEUM、江東区深川江戸資料館、GLASS-LAB、リカシツ、江東区芭蕉記念館、どうぶつしょうぎcafe いっぷく、POTPURRI、gift\_lab GARAGE、KANA KAWANISHI GALLERY、LYURO GALLERY、TAP Gallery、小名木川物語製作委員会、水辺からアプローチするアートシーンズ、フカガワヒトナリ、清澄白河ガイド(シラベル)ほか

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL.03-5633-5863(直通) / FAX.03-5633-5870 (FAX番号は9月28日(金)まで有効)

E-MAIL.mot-pr@mot-art.jp

## 開催概要

名称	<b>MOT サテライト 2018 秋 うごきだす物語</b>
会期	2018 (平成 30) 年 10 月 20 日 (土) - 11 月 18 日 (日)
開場日時	金・土・日、祝の 11:00-18:00
会場	清澄白河エリアの各所 (MOT スペース・MOT スポット)
観覧料	無料 * 関連プログラムもすべて参加無料
案内所	MOT スペース A 江東区三好 3-8-5 (清澄白河駅 B2 出口から徒歩約 3 分、A3 出口から徒歩約 8 分) 「MOT サテライト」の展示やイベント等についてご案内いたします。
MOT スペース	[メイン会場] MOT スペース A 深川資料館通り商店街協同組合事務所 1F 江東区三好 3-8-5 MOT スペース B グランチェスター・ハウス 江東区三好 3-8-5 MOT スペース C 白河の倉庫 江東区白河 2-5-9 MOT スペース D 大島倉庫 江東区白河 2-4-2 MOT スペース E 旧酒房越路 江東区白河 2-4-2 MOT スペース F 三好の旧製本所 江東区三好 2-15-3 MOT スペース G 白河二丁目町会会館 江東区白河 2-3-8
開場日時	金・土・日、祝の 11:00-18:00
MOT スポット	[清澄白河エリアの店舗・カフェ等] ㊤ ささき / ㊦ 旭写真店 / ㊧ アライズ コーヒー エンタングル / ㊨ 江東区立深川図書館 / ㊩ サッカー (予定)
開場日時	上記の各スポットの営業日や営業時間に準じます。
お問い合わせ	03-5777-8600 (ハローダイヤル) / 03-5633-5860 (東京都現代美術館 代表)

主催 後援 特別協力	東京都、東京都現代美術館・アーツカウンシル東京 (公益財団法人東京都歴史文化財団) 江東区、駐日韓国大使館 韓国文化院 深川資料館通り商店街協同組合、東京藝術大学芸術情報センター、東京大学 廣瀬・谷川・鳴海研究室
協賛 協力	大日本印刷株式会社 デル株式会社、錯視ブロックワークショップグループ、一般社団法人 江東区観光協会、江東区文化観光ガイドの会、江東区立深川図書館、江東区深川江戸資料館、江東区立元加賀小学校、元加賀小学校 和太鼓クラブ、旭写真店、白河二丁目町会、江東区芭蕉記念館、グランチェスター・ハウス、龍徳山光厳教寺 雲光院、株式会社ささき、THE FLEMING HOUSE、アライズ コーヒーエンタングル、サッカー、ティーポンド ほか
企画担当	第 21 回 文化庁メディア芸術祭協賛事業 北澤 ひろみ 東京都現代美術館 事業企画課 企画係 [担当作家] チョン・ヨンドゥ / 宮永 愛子 / 鈴木のぞみ / ひがし ちか / 東京都現代美術館収蔵品展示 (デニス・オッペンハイム) / 鉄割アルバトロスケツト 森山 朋絵 東京都現代美術館 事業企画課 企画係 [担当作家] 志村 博 / 東京大学 廣瀬・谷川・鳴海 研究室 × DNP AR プロジェクト / 東京藝術大学 芸術情報センター 清澄白河プロジェクト / 錯視ブロックワークショップグループ / のらもじ発見プロジェクト / 心臓ピクニック・日本的 Wellbeing プロジェクト

お問い合わせ  
東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤  
TEL.03-5633-5863 (直通) / FAX.03-5633-5870 (FAX 番号は 9 月 28 日 (金) まで有効)  
E-MAIL.mot-pr@mot-art.jp

## 展示エリア



**案内所** MOT スペース A と同じ

### MOT スペース

<b>A</b>	深川資料館通り商店街協同組合事務所 1F	江東区三好 3-8-5
<b>B</b>	グランチェスター・ハウス	江東区三好 3-8-5
<b>C</b>	白河の倉庫	江東区白河 2-5-9
<b>D</b>	大島倉庫	江東区白河 2-4-2
<b>E</b>	旧酒房越路	江東区白河 2-4-2
<b>F</b>	三好旧製本所	江東区三好 2-15-3
<b>G</b>	白河二丁目町会会館	江東区白河 2-3-8

### MOT スポット

ⓐ	ささき	江東区清澄 3-4-16
ⓑ	旭写真店	江東区三好 1-5-7
ⓒ	アライズ コーヒーエンタングル	江東区清澄 3-1-3
ⓓ	江東区立深川図書館	江東区清澄 3-3-39
ⓔ	サッカー	江東区三好 3-8-7

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL.03-5633-5863 (直通) / FAX.03-5633-5870 (FAX 番号は9月28日(金)まで有効)

E-MAIL.mot-pr@mot-art.jp

## 媒体提供用広報用画像

本展の広報用画像として以下の8点をご用意しています。  
掲載ご希望の方は別紙掲載申し込み書にてお知らせください。

\*1～7は参考図版です。



1. チョン・ヨンドウ 《A Girl in Tall Shoes》 2018



2. 宮永 愛子 《手紙》(部分) 2013 写真:木奥恵三  
© MIYANAGA Aiko Courtesy Mizuma Art Gallery



3. 鈴木 のぞみ 《Other Days, Other Eyes: 柿の木荘2階東の窓》  
2016-2017 写真:木暮伸也 Courtesy of rin art association



4. ひがし ちか 《ペーパーパレット》 2018



5. 志村 博 《江東区 砂町運河 鉄道橋 付近》 1968



6. のらもじ発見プロジェクト 2013 写真:池田陽美



7. 鉄割アルパトロケット 写真:沼田 学



8. MOT サテライト 2018 秋 うごきだす物語 メインビジュアル

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL.03-5633-5863 (直通) / FAX.03-5633-5870 (FAX番号は9月28日(金)まで有効)

E-MAIL.mot-pr@mot-art.jp

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 宛

## 画像請求書

広報用図版として8点をご用意しております。掲載ご希望の方はお手数ですが本請求書に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールにてご連絡ください。なお、写真の使用に際し、キャプションは、(作家名、作品名、制作年、コピーライト等)を必ずご表記ください。

作品のトリミング、編集、文字載せはお控えください。本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認のための校正原稿をお送りいただき、掲載後には、掲載誌(紙)、HPリンク、DVD、CD等を広報班宛てにお送りください。

媒体名：  
\_\_\_\_\_種別： TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー ネット媒体 携帯媒体 その他  
\_\_\_\_\_発売・放送予定日：  
\_\_\_\_\_御社名：  
\_\_\_\_\_ご担当者名：  
\_\_\_\_\_Eメールアドレス：  
\_\_\_\_\_ご住所：  
\_\_\_\_\_TEL：  
\_\_\_\_\_FAX：  
\_\_\_\_\_

ご希望の図版番号に  をお付けください。

1. ジョン・ヨンドゥ 《A Girl in Tall Shoes》2018 参考図版
2. 宮永 愛子 《手紙》(部分)2013 写真：木奥恵三  
© MIYANAGA Aiko Courtesy Mizuma Art Gallery 参考図版
3. 鈴木 のぞみ 《Other Days, Other Eyes : 柿の木荘 2階東の窓》2016-2017  
写真：木暮伸也 Courtesy of rin art association 参考図版
4. ひがし ちか 《ペーパーパレット》2018 参考図版
5. 志村 博 《江東区 砂町運河 鉄道橋 付近》1968 参考図版
6. のらもじ発見プロジェクト 2013 写真：池田陽美 参考図版
7. 鉄割アルバトロケット 写真：沼田 学 参考図版
8. MOT サテライト 2018 秋 うごきだす物語 メインビジュアル \*キャプション不要

東京都現代美術館  
事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤  
TEL.03-5633-5863(直通)  
FAX.03-5633-5870 (FAX番号は9月28日(金)まで有効)  
E-MAIL.mot-pr@mot-art.jp



MUSEUM CONTEMPORARY TOKYO  
OF ART  
東京都現代美術館



ARTS COUNCIL TOKYO



芸術文化のふれあい出合い  
Tokyo Museum Foundation  
for History and Culture  
COLLABORATION PROJECT



Tokyo Tokyo  
FESTIVAL